

「平和の王」

イザヤ書11章1～10節

イザヤは、「エッサイの株から芽が出る」と語ります。切り倒され、もう終わったかに見える“残骸”からです。まるで夜のうちに土の下で準備を整え、誰にも気づかれないと朝の光に向かって顔を上げたようにです。閉ざされたと思った扉の下に、ほんのわずかな隙間から光が差し込んでくるようなときです。

神の希望は、人間の見込みとはずいぶん違うところから始まります。イザヤが描く平和の姿は独特です。狼と小羊がともに草原で横になる。豹と子やぎが同じ場所で眠っている。動物園でそんな光景を見たら職員が飛んでくるでしょう。子羊が危険だからです。しかしこれは、神の支配が実現するときの“関係の回復”的象徴です。(それに、狼も、もし子供の頃から人間に育てられ、羊と一緒に生活していれば羊を襲いませんよね。羊の面倒をみているかもしれない。)これは寓話ではなく、神の支配が到来するときの“関係の回復”的絵なのです。人間関係のこじれ、社会の分断、心のささくれーそこに神は調停者として立ち、あり得ない和解を実らせる。私たちの教会や家庭の中にも、ほんの小さな“和解の芽”が忍び寄っています。

アドベントの2週目。

「切り株から芽が出る」ように、静かに、気づかれぬうちに、神の平和は始まっています。私たちの心の中にも、同じように芽が伸びようとしています。「和解してみようか」「祈ってみようか」「もう一度信じてみようか」そんな小さな思いは、ただの気まぐれではありません。平和の王がそっと触れてくださったサインなのだと思います。その小さな芽を大切にしながら、主の来られる道をゆっくり整えていきましょう。冬の冷たい空気の中にも、平和の神は確かに近づいています。

日本キリスト教団 浦河教会

週 報

No. 36 2025年12月7日



〒057-0022 北海道浦河郡浦河町昌平町東通 32

伝道師 大槻茂勝

090-9716-1353

2025年12月7日 (No.36)

降誕前第3・待降節第2主日礼拝

しかし はんだ そうがくまつむら のぶえ
司会 半田かおる・奏楽 松村 宣恵

前 奏	ぜんそう	いち	どう
讃美歌	さんびか	いち	どう
祈 り	いの	しかいしゃ	司会者
聖 書	せいしょ	しかいしゃ	司会者
イザヤ書 11章 1~10節	しょう	せつ	
(旧約聖書 1078 頁)			
讃美歌	さんびか	いち	どう
「平和の王」	きょう	ぼく	し師
讃美歌	さんびか	いち	どう
献金と感謝の祈り	けんきん かんしゃ いの	いち	どう
主の祈り	しゅのいの	いち	どう
頌 荣	しょう えい	いち	どう
キリストの平和が (1, 5)	きりすとのはが	ぼく	し師
祝 祷	しゅくとう	かた	ひさ
新しく来られた方・久しぶりの方の紹介	あたら こ かた ひさ かた しううかい		

【今週の集会】

◇一緒に聖書を読み祈る会

12月 10日 (水) 19時 於 礼拝堂

〈コヘレトの言葉 5章 12~19節〉 旧約 1040 頁

讃美歌 261番・419番

【次週の予定】

◇主日礼拝 (アドベント第3週)

12月 14日 (日) 14時

聖書 詩篇 126 篇

讃美歌 242 (1・2・3番) ・ 231

◇一緒に聖書を読み祈る会

12月 10日 (水) 19時 於 礼拝堂

〈コヘレトの言葉 5章 12~19節〉 旧約 1040 頁

讃美歌 263番・433番

【来週の礼拝 司会者を決めましょう】

①山本充枝 ②内村直人 ③半田かおる

④伊藤知之 ⑤山根耕平 ⑥岸澤恵美

⑦高崎 晋 ⑧早坂 潔 ⑨荻野 仁

⑩和田智子 ⑪吉田公子 ⑫大矢英明

【集会統計】

集会名	出席者	献金
主日礼拝 (11月30日)	11名	13,221 円
祈祷会 (12月3日)	3名	讃美歌258・264

・頌栄 キリストの平和が

1. キリストのへいわが
わたしたちのこころのすみ
すみにまで 行きわたりま
すように

5. キリストのゆるしが
わたしたちのこころのすみ
すみにまで 行きわたり
ますよう